



マナー

校長 澁谷 あゆみ

学校にとっての新しい年である令和6年度が始まりました。

今年度本校が力を入れていきたいことは「マナー」です。昨年、あるイベントで他校の子どもたちが全身を大きく使い、たっぷりの思いを込めて歌っている姿を見て、本校の子どもたちが笑ったり、面白おかしくまねをしたりするということがありました。なぜ他校の子どもたちが一生懸命に歌っている姿を見て、笑ったりまねをしたりしたのか。それはそういう表現の仕方があることを「知らなかった」ことに加えて「マナー」を知らなかったからだと思います。直立不動で歌うのが「歌う」ことだと思っていた本校の子どもたちは、一人一人が自分の思いに合わせて手や身体全体を動かしながら歌う人を目の前で見たことがなく、おかしかったから笑ってしまったのでしょう。ただ、「自分たちの発表を一生懸命にやるだけでなく、人の発表も一生懸命聴く」という「マナー」が身に付けられていたら、そういうことにはなっていなかったのではないかと悔やまれました。

日本と世界の他の国の子どもたちに対するしつけの考え方の違いとして、「道徳心を学ばせる」か「マナーを身に付けさせる」という議論があります。例えば日本では、公共交通機関に乗っているときに高齢者や身体の不自由な方に席を譲ることを「道徳」として学ばせます。しかし、世界の多くの国々では「当然にそうするもの」すなわち「マナー」として身に付けさせるのです。だから、日本のように「譲った方がいいのかな」と葛藤することなく、行動として躊躇なく動かなければならないものとしてしつけられるので、誰もが行動できるようにと言われていています。今年度は、そうしたマナーを身に付けさせることに、年度の初めから力を入れていきたいと考えています。

本校では引続き、子どもたち一人一人の「自律」を育てていくことを最終的な目標としますが、社会の中で生きていくうえで最低限必要な「マナー」について、自律を育む根底をなすものと位置付けていきたいと思っています。具体的には、「あいさつ・返事」「人の話を聴く」「はきものそろえ」の3点に重点的に取り組みます。

保護者の皆さま、地域の皆さま方には、ぜひこの3点ができているか、という視点からも学校を見ていただきたいと思っています。

自律

try &
error

心理的安全性
(マナー)